

チャレンジ支援委員会「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1」報告書

チャレンジ支援委員：天野、黒田、鈴木、濱田、家根橋、吉川

2021年9月12日 10:00-12:00 オンライン開催

「発表のネタ探しー現場の課題や実践を大会・支部集会発表につなげようー」

2021年度第1回「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1：発表のネタ探し」には、国内外から17名の方にご参加いただきました。約半数が海外からの参加者で、オンライン開催の特長が発揮できました。参加者の日本語教育歴は1年から20年まで幅広く、フリーランスの方から教育機関の教員まで、それぞれの実践現場に根差した問題意識やアイデアを発表のネタとして持ち寄ることができました。

当日の企画は、「第1部：『はじめての発表』の体験談を聞こう」と「第2部：グループワーク『発表につなげるタネを一緒に探そう』」の2部構成でした。第1部では、先回に引き続き、現チャレンジ支援委員の平山允子さん（日本学生支援機構東京日本語教育センター）と前チャレンジ支援委員の佐藤正則さん（山野美容芸術短期大学）のお二人を講師としてお招きしました。平山さんには、実践における頑張りや楽しさを広く共有して議論したいという発表の意図、発表デビュー時の緊張や収穫、日本語学校の教員が持つ教育改善の意識などについてお話いただきました。佐藤さんは、実践研究という考え方との出会いを経て、初めての発表に臨んだご経験をご紹介くださいました。試行錯誤しながら継続的、協働的に実践に取り組むことにより、学校の改善につながるのことでした。参加者からはチャット機能を通じて質問が寄せられ、研究や発表に対する勤務校の理解、協力者の同意や匿名性、発表から得られた成果の勤務校への還元状況、実践内容の言語化、文章化などについて質疑応答がなされました。

第2部では、少人数のグループに分かれ、各参加者が日々の実践の中で見つけた発表のネタについて、他の参加者や委員と話し合いました。毎日の実践の中から気になる点や問題意識が浮かび上がりつつある方から、データの収集も分析の準備も終わっている方まで、様々な方がいらっしゃいました。チャットで資料や情報を共有するなど、オンラインの強みを活かすこともできました。参加者同士で意見交換することにより、お互いの背中を押し合って、発表に向けた自信が得られたのではないのでしょうか。

参加者による事後アンケートでは、概ね「満足できた」「役にたった」という回答をいただきました。「話しやすかった」「勇気をもらえた」といったコメントもありました。開催日時、回数、全体による振り返りの共有など、今後の検討課題も明らかになりました。

今回の「STEP1 発表のネタ探し」の参加者の中から、次の「STEP2 発表応募セミナー・個別相談」へ、更には「STEP3 発表応募原稿チェック」へと順調に歩を進めて、実際に発表までたどり着く方が一人でも多くいらっしゃることに期待しています。

